

巻頭言

2000 年を迎えて

審議役
並川 滋

ミレニアムを迎える日、世界を挙げての最大関心事がコンピューターの2000年誤作動問題であったことは全く象徴的なことでありました。

情報技術革命の急速な進展で高度情報社会が到来し、先進国ではインターネットを中心にした情報ネットワークが爆発的に普及し始めています。

情報技術化の太い流れに対し企業の適応力がいや応なく問われることになり、我々にとっても高度情報社会の中で今後ネットワーク上にあるデータをいかにうまく使いこなすかの知恵が必要になってきます。

しかるに「Y2K」で新たに増えてきたものは何か、それは何にかを起すのでなく起きないように努力することの意義と評価であります。何も起きないように努力することは通常高く評価されることは決してありません。しかし今回はその努力を世界中が認知しました。

このことは昨年、全国的に起った構造物の落下事故にもいえることであり、今後構造物の管理保全に最大限の努力をはらうことが重要であります。

一方、公団にとって待望久しい新たな路線（大和川線、淀川左岸線2期そして油小路線の3路線）をミレニアムにふさわしく、事業の展開を図っていくことになります。

昨今の公団を取り巻く厳しい情勢は引続きあるものの、これを乗り越える新たな発想をもって20世紀最後の年を有終の美をもって終えられるよう努力する必要があると思います。